



赤い羽根の中央共同募金会

2019年4月10日

## 「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（ボラサポ・北海道） 追加助成決定にあたって

### はじめに

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、土砂災害に巻き込まれた住民の方が亡くなられ、多くの住宅が倒壊しました。また、液状化により道路などの損壊が相次ぎ、大規模な停電が発生するなど、多くの被害をもたらしました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

特に被害が甚大だった震源地の厚真、安平、むかわの3町では、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアグループやNPO等による、救援・復旧・復興のための支援活動が行われました。また、札幌市内でも、札幌市社会福祉協議会が取り組んできた「地域における助け合い活動」を通じて、支援活動が行われました。

北海道胆振東部地震以後も断続的な余震が続き、今年2月には震度6弱の余震も発生しました。北海道では引き続き支援が必要な状況が続いており、発災以降、支援活動をしていた団体も活動を継続する団体が多くいらっしゃいました。こうした活動を支えるために、中央共同募金会では、平成30年北海道胆振東部地震の被災地で支援活動を引き続き実施する団体への助成事業を実施することといたしました。

### 1. 追加助成応募状況と助成決定状況

ボラサポ・北海道追加助成は第1回ボラサポ・北海道の助成決定後にも、多くの皆さまからご支援をいただいたことにより実施できることとなり、2月1日より応募受付を開始し、2月21日の締切までに12件、合計2,362万円の応募がありました。

ボラサポ・北海道では北海道内に所在し支援活動を行っている団体の比率が高く、また、助成できる寄付金にも限りがあるため、第1回助成で中長期活動の助成決定した団体に追加助成の応募を募ることとしました。

応募のあった12団体中9団体は北海道内に所在しており、発災当初から地元の団体が中心となり、他地域の団体と連携しながら支援活動を行っていることがうかがえました。

応募された活動内容は、コミュニティ再生、サロン活動が全体の半分を占め、それ以外の活動では子供の学習支援や在宅被災者への支援活動、炊き出しなどが行われています。

3月26日、追加助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、応募のあった活動内容と経費について審査を行いました。

北海道内の団体同士がつながり、協働しての活動や、支援活動の担い手として大学生の参加を促す活動など、応募要項に記載した「審査に当たって重視する点」に沿って評価され、11団体に対し、合計1,844万円の助成が決定しました。

また、応募書から活動の効果や必要性について読み取れない応募については、他団体の応募内容との相対的な評価から、減額での採択または不採択となった応募がありました。

## 2. 今後の予定について

発災から7か月がたったいまでも、被災された方々が抱える慣れない環境や今後の生活に対する不安、みなしひ假設住宅へ入居された方々へ支援をどのように届けられるのか、など多くの課題が残っています。

今後は、生活支援やコミュニティ支援が必要とされていく中で、地域での支え合いが根付くことを願い、ボラサポ・北海道にいただいたご寄付を、被災した3町での住民が支え合う活動に助成できるよう、しくみや体制を検討し、実施していく予定です。

最後となりましたが、本助成事業は、平成30年9月6日から募集をはじめた「台風21号災害、北海道胆振東部地震災害にともなうボラサポ（災害ボランティア・NPO活動サポート募金）」へのご寄付を財源として実施しています。

ボラサポへご理解、ご支援をいただいた多くのみなさまへ、深く感謝申し上げるとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれでは、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、被災地の復旧・復興支援活動を通じ、被災された方々の支えとなる活動をしてくださることを期待しています。

災害ボランティア・NPO活動サポート募金  
運営・審査委員会 委員長 山崎 美貴子